

映画鑑賞 創造力育もう

学園大付属中 仏監督が特別授業

仏のアニメーション映画監督セバスチャン・ローデンバックさんが3日、熊本市中央区の熊本学園大付属中で自作を題材にした映画教室を開き、生徒たちが映像表現の解釈などを学んだ。

熊本市が、映画を通して 育もうと企画、小中高で創造力と豊かな感受性 生を対象に映画鑑賞教育



を実施している仏からローデンバック監督を招いた。

全校生徒約2000人が、グリム童話を下敷きにした約80分のアニメーション映画「手をなくした少女」を鑑賞。少女が苦難を経験しながら成長する物語で、監督は「何を感じるかは見る人の自由。表現の意図や作品が伝えたいことは何かなどを考えてほしい」と語り掛けた。

2年の三隅怜さんは「せりふが少なかったので、内容について想像を膨らませながら見た」と楽しそうに話していた。

この日は熊本市西区の崇城大芸術学部でも同様の教室を開催。4日は中央区のルーテル学院高でも開く。（深川杏樹）

映画上映後、熊本学園大付属中の生徒と質疑応答するセバスチャン・ローデンバック監督（中央左）

＝熊本市中央区